

## ご挨拶



土浦市長  
中川 清

新年、明けましておめでとつございます。  
平成22年の初春を市民の皆様と共に迎えられる  
慶<sup>よろこ</sup>びを心からかみしめております。

さて、恒例となりましたその年の世相を表す漢  
字一文字、昨年は、「新」でありました。長らく続  
いた55年体制の崩壊による新政権の誕生、新型イ  
ンフルエンザの流行、イチロー選手の世界新記録  
等々が大きく作用したようです。

この「新」という文字は、土浦市にとりましても、  
大きな意味を持つと思います。それは、今年が  
市制施行70周年という記念すべき年であるからで  
す。

土浦市は、昭和15年11月3日に土浦町と真鍋町  
が合併し、茨城県3番目の市として誕生いたしま  
した。戦後の苦しい時代や水害など幾多の苦難を  
乗り越え、市誕生時には人口3万5500人であ  
りましたが、現在は人口14万4500人の都市へ  
と発展、成長してまいりました。

70年の歩みは、市民一人ひとりの歴史でありま  
す。今日の発展は、多くの先人たちのたゆまぬ努  
力と明日への希望の積み重ねによるものであり、  
改めて深甚なる敬意を表するとともに、深く感謝  
を申し上げる次第であります。

市制施行70周年を迎えることは、誠に感慨深いことではありますが、この節目を新たな歴史と伝統を刻む出発点として捉え、本市の将来あるべき姿を見据えながら、しっかりと足下を固め、市政運営に当たって参る所存でございます。

世界に冠たる平和と繁栄の国、日本は、少子高齢や国際化、高度情報化、地球規模での環境問題等々大きな流れの中にあり、戦後のパラダイムが崩壊し、新しいパラダイムを構築しなければなりません。

昨年末のニュースにおいて、国債の発行高が昭和21年以来、実に63年振りに税収を上回ることが明らかにされました。これ一つをとっても容易ならざる覚悟が必要であります。

今、「中央から地方」、「官から民」、「物から心」という流れの中で、特に地方分権への取り組みがハッキリと示されました。だからこそ、財政、人事等々受け皿となる諸問題にも耐えうる「土浦づくり」のためには、真の行財政改革が必要であり、何よりも市民の皆さんとの協働がなければ不可能なことであると思えます。

もう一度、繰り返しになりますが、満70歳を迎えた新しい年、変革の時、新しい土浦市のまちづくりに全力を尽くしたいと思います。

市民の皆様のご更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

